

New
Engineering
Progressive

- 東京セメント工業株 ☎03 (263)7788
- 株式会社常盤コンクリート工業所 ☎0488(73)7171
- 館山コンクリート株 ☎0470(22)1589
- 株 日 東 ☎0492(83)5181
- 株 武井工業所 ☎02992(3)2196
- 利根コンクリート工業株 ☎0471(29)4421
- 同和コンクリート工業株 ☎0487(46)7721
- 大丸コンクリート株 ☎0423(62)4070
- 富士コンクリート工業株 ☎0422(53)1221
- 龍王産業株 ☎0552(76)2014
- 住建コンクリート工業株 ☎03 (357)0371
- 茨城中央コンクリート工業株 ☎02967(7)1135
- ヨシコン株 ☎05462(2)0641
- 日本コンクリート株 ☎052(793)1151
- スギヤマコンクリート株 ☎052(761)5356
- 株 丸治コンクリート工業所 ☎0572(22)6175
- 株 拓植コンクリート工業株 ☎0592(32)2555
- 株 ネオジオ ☎0596(22)1285
- 株 貴川特殊コンクリート工業株 ☎05372(6)2221
- 淀コンクリート工業株 ☎06 () 218
- 京阪コンクリート工業株 ☎075() 3231
- 阪神工業株 ☎07946(7)0280
- 阪和コンクリート工業株 ☎0722(41)1667
- 双和コンクリート工業株 ☎0773(23)0331
- 日進コンクリート工業株 ☎07442(2)6641
- 光コンクリート工業株 ☎0775(87)2101
- 株 清水組 ☎0795(32)3250
- 加西コンクリート株 ☎07904(8)2661
- 中国コンクリート工業株 ☎08675(2)1141
- 出雲コンクリート工業株 ☎0853(23)2633
- 山陽ブロック工業株 ☎082(293)1020
- 藤田建材工業株 ☎0829(21)1121
- 長尾コンクリート工業株 ☎0878(31)1695
- 日本コンクリート工業株 ☎0899(64)2193
- 株 カンケン ☎0875(25)3427
- 富士建設工業株 ☎0886(42)1477
- 日本興業株 ☎0878(31)2828
- 株 九 科 ン ☎092(741)5731
- 大建コンクリート株 ☎0977(24)5411
- 協立コンクリート工業株 ☎096(293)4332
- 不二高圧コンクリート株 ☎096(356)8585
- 株 九 建 ☎0992(23)9911
- 沖縄建設工業株 ☎0988 7081
- 株 沖 坤 ☎0986 2188
- 不二コンクリート工業株 ☎0954(23)3168
- 大建コンクリート工業株 ☎092(771)6211
- 仙台コンクリート工業株 ☎022(241)5111
- 盛南コンクリート工業株 ☎0196(36)0320
- 吉田セメント工業株 ☎0242(27)4328
- 東栄コンクリート工業株 ☎0236(43)1144
- 若松コンクリート株 ☎0186(55)0181
- 東成産業株 ☎0198(24)5311
- 沖田コンクリート株 ☎01255(4)1255
- 株 鋼 商 ☎01452(5)3111
- 日本高圧コンクリート株 ☎011(241)7101
- 永井コンクリート工業株 ☎0257(47)2331
- 株 高 見 澤 ☎0257(47)2331
- 株 ミルコン ☎0776(54)0171
- 株 ケ ン 子 ☎0766(52)0113

技術指導

- 株建設企画コンサルタント ☎06 (441)4613
- 原 田 株 ☎03 (494)2331

事務局

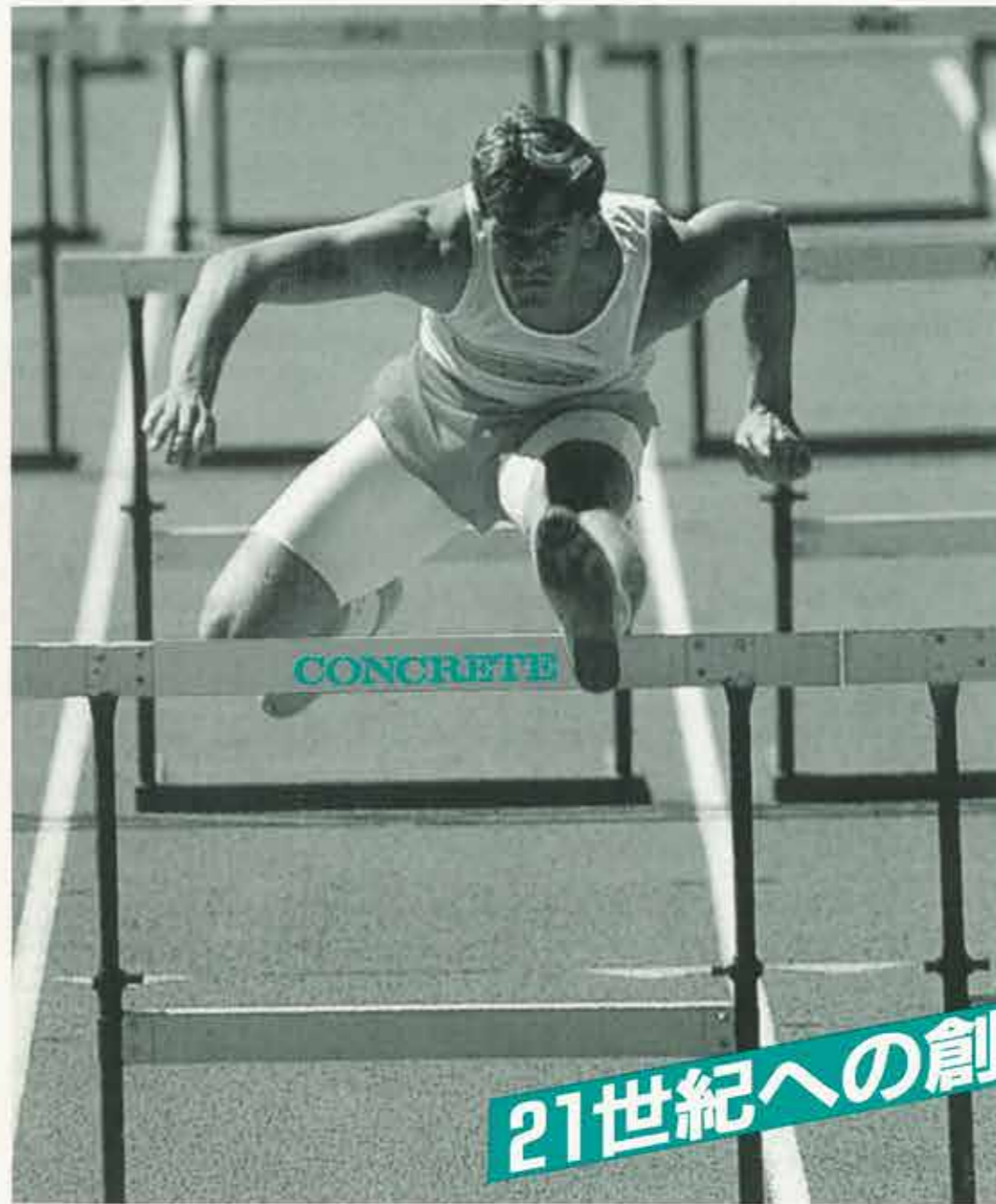
- 〒613 京都市伏見区淀本町225(東区工務局管内)
☎075(632)0840

NEP

REPORT

エヌ・イー・ピー レポート

Vol.2



21世紀への創造



最近、私の事務所を訪ねてみえるコンクリート製品企業の経営陣の方々は、景気見通しについては非常に強気で、「戦後最長の好景気になるだろう」と意見は一致している。

8月1日に、九州・博多で長谷川会長と懇談の機会を得た。この時、私がお話したことの一つに、「過去の好景気は、すべて国外からもたらされる原因によって変化していつている」という点があった。ところが、何とその翌日の8月2日にイラクが戦争を始めた。果たしてこれが日本の経済のターニングポイントになるのだろうか。

又、我々のコンクリート製品業界はどうなるのだろうか。若干、考察を試みた。

- (1) 元来、「中東の火薬庫」という言葉がある様に、先進国はこのことあるを予測して、準備をして来た様だ。
- (2) 米ソ冷戦終結に伴い、アメリカはGNP比6%の軍事費を、4%にすることを決め動き出した。現在でも米軍400万人、イラク軍100万人、その上米軍は古風ないい方をすれば、平和の世に馴れ、イラク軍はイランとの長い戦争で、実戦経験十二分。イラクの自信の程は、我々の想像をはるかに越えていよう。因みに、クウェートは、2万人、サウジは8.6万人である。
- (3) ヨーロッパの連中は、日本人を理解出来ないとかよくいうが、アラブの人々の考え方を他の国々の人が理解するのはもっと困難であろう。事の善悪を別にしてイラクが窮地に立った時、パレスチナ系の人々がイラクの味方として動き

出すのは確かである。

- (4) アラブの考え方は「目には目を」である。そして面子を気にする点では、非常にしつこい。今回の問題は長びくだろう。石油の量的制約と価格のアップは、長く続くと考えねばならない。
- (5) 日本経済は、「円高、内需刺激、価格安定型」から、「円安、高需要、インフレ抑制型」へときた。ここで、インフレ抑制型か何か出来ていたのは、原油安によるものである。この構図が崩れたことは確かである。
- (6) 日本官僚は頭が良い。又、その背後で支える調査力も超一流である。中東の火薬庫に火がつくことも、予測していた様である。ここからの最大のテーマは、「物価上昇率をどの位に抑えきれぬか」である。石油の量的な問題(不足)が表面化するの、もっと先になるだろう。価格の問題がまず第一である。
- (7) 石油の現状程度の量的制約や、価格の上昇だけでは、石油危機は起こらない。これらが引き金となって、石油消費国の経済が大きく不況化することによってのみ、石油危機は発生する。
- (8) 過去の経験によると、景気が伸びきった状態での石油問題は、経済に与える影響が大きい。一つは、物価上昇が大巾になることと、ブレーキの効かせ方が難しいからである。日本の現状は、この状態であろう。米の場合は、景気減速がはっきりしてきた段階である。減速のスピードが早まる。

(9) 別の面からみると、日本のGNPに対する原油輸入額の割合は、第一次石油ショック時に比べ、大巾に低下しており、1%を切っている。その意味では、景気への直接的な影響は小さくなっている。

(10) 8月9日、日経のマクロ経済データバンクの計量モデルを使って、次のデータが出て来た。結論としては、「景気減速せず」「その他商品では、5~6%以上の価格上昇」「商品市況の過熱はない」「インフレ対策は動き出す」である。

インフレ対策としては、金利アップと総需要の抑制である。しかし、企業の自己資金が厚く、金利によるコントロールが非常に難しくなっている。総需要の強い抑制に動かざるを得ない。

(11) 我々のコンクリート製品業界が影響を受けるポイントは、

- (I) コストアップの販売価格への転嫁(特に輸送費)。いつもの例で、サンドイッチになる。即ち、コストアップは早々とやって来て、ゼネコンへの価格転嫁が難しい。
- (II) 活発に進めつつある省力化投資に対し、金融引き締めの影響。
- (III) 総需要抑制策により、建設投資の民間比率が更に上昇(→建築比率の上昇)
- (IV) 労働時間の短縮が、上記の問題を更に大きくする形となろう。

(12) コンクリート製品企業として、この際心せねばならないメインポイントは、次の通りと考えられる。

- (I) まず、社内の甘いムードを一掃すべし。
- (II) 単なる増産投資は「待った」である。
- (III) 体質改善投資は積極化すべし。但し、投資採算を厳しく追及すべし。
- (IV) 民需向けの売り上げ増(商品の準備も含め)の、中期の計画を組むべし。
- (V) 「調査」に思い切って投資すべし。但し、見学程度のもは、調査の内に入らないものと心得るべし。
- (VI) 営業陣に、まずコストアップ市を具体的に理解させるべし。コストアップ分の価格への転嫁が大きく業績に影響する。
- (VII) 販売増により、コストアップを吸収していける良き時代は終わりと見て、次の時代の準備を進めることが急務である。

原油高による90年度日本経済への影響
(前年度比増減率、*マイナス)

	原油価格(バレル当たり) 25ドル		30ドル	
	下期	全体	下期	全体
実質GNP	3.18	4.30	3.11	4.20
実質総経費	3.19	3.80	2.08	3.77
実質設備投資	5.43	8.41	5.26	8.31
実質輸出	7.06	10.09	8.95	10.22
実質輸入	7.25	10.67	7.08	10.57
貯蓄率	2.02	1.76	2.90	2.20
消費増進	2.86	2.05	3.07	2.79
海外経費収支(億ドル)	155.7	283.7	120.8	325.1



顧問
原田 理一
'90.8.10記

[平成2年6月21日]

平成2年6月21日(休)京都タワーホテルにて56社、120名が参加し開催されました。経営者部会(松崎正年部会長)、技術部会(渡辺邦昭部会長)、営業部会(下瀬博貴部会長)よりまた品質管理委員会(沖田比呂志委員長)、新製品導入委員会(荒川均委員長)より平成元年度の事業報告がなされ、同時に収支決算報告、監査報告も同時になされました。



合同部会(技術・営業)レポート [平成2年6月22日]

下瀬営業部会長より、平成2年度(19期)の合同部会事業計画とし、本年も

「21世紀へ向けての創造」

としたテーマを継続して行い、両部会の計画は下記とする。

技術部会

1. 時代に即応した新生産体制・新技術の調査研究
2. 景観商品の調査研究
3. 秋季・春季部会(研修会)開催

営業部会

1. 情報収集・情報交換の場づくり
2. 景観商品の調査研究
3. 秋季・春季部会(研修会)開催

書籍の紹介 営業委員 吉田立志

「街の素材」 編者:通商産業省生活産業局編
発行人 木村 滋

景観のイ、ロ、ハが書いてあるので各社一冊配布致しますので、じっくりと読んで景観修景に対し参考にして下さいとの説明有り。

特別講演「諸外国の環境修景計画の考え方」

建設企画コンサルタント 取締役環境計画部長
田嶋久短氏



また新入会員として、
大建コンクリート工業株 [岐部安信社長、福岡県]
加西コンクリート株 [竹内筭太郎社長、兵庫県]
茨城中央コンクリート工業株 [常井貞利社長、茨城県]
東成産業株 [中西信篤社長、岩手県]
の四社が万場一致で承認され、会員は59社となりました。
「二十一世紀へ向けての創造」をスローガンにNEP工業会は羽ばたきます。

営業委員
阪本勝利



現実的視野からとらえた景観について説明します。太古の昔より我が国は万葉集、山水画等、自然しみ景観を感覚でとらえていた。ところが、最近のトレンド風の景観は開発行為の中より視覚的にとらえられている。つまり「見える環境」の良し悪しで判断する方向に向いている。この場合、景観は十人十色であり学問的・行政的を重視して方向性を求める。これを景観シュミレーションとすると、
1. 時間(歴史・季節等)
2. 自然(緑・水・風等)
3. 人間のデザイン力(空間・色・デザイン)
が重要な要素になってくる。
では、具体的な取り組み方は、次の3点にしぼられる。
A. 地方の特性を生かす
京都・奈良・倉敷等…古都のイメージ
B. 自然を生かす

リバーフロント計画 ポケットパーク 森林公園等
C. 人工的な建物に取り入れる
建物空間|コミュニティファニチャー 公共景観等
この内容を景観事業に取り組む全員が十分理解して実施設計のマニュアルとされたい。
尚、私が大切にしている設計基準は、
1. 自己主張は控めに…京都弁のはんなりと
2. 機能をあからさまに出さない…ギ木等は?
3. すっきりとしたデザイン…トータル性を出す
4. あきのこない…異和感をなくす
以上が修景を考え、設計するポイントで有る。
表記の考え方の基本姿勢とポイントになる点を次に

スライドを使って「諸外国の修景」に対する実際例の説明が行われた。
アメリカ・テキサス・ロスアンゼルスのリバーフロント。
サンジェゴの三例 ●柵がない
●管理面が充実
フィリピンのセブ……インテリアガーデン
スペイン………白と青、色彩の妙
イギリス………おちつき
等々でした。
人との対話を深め、書籍を読み、知識を深める努力をしなければと感じました。

春季合同部会報告

春季合同部会を終えて

営業委員
吉田立志



毎年恒例になっているNEP工業会の春季合同(技術・営業)部会が今年度も総勢40社100名を迎え、古都京都の地において我々工業会の顧問でおられる原田理一、福住隆二、両先生の特別講演が開催されました。
原田先生からは「2001年のコンクリート業界の展望」という演題をテーマにこの21世紀までの10年間の我々業界の①環境変化(官公庁需要より民間需要が増加し、土木工事よりも建築工事がより増大する)②労働問題(労働力不足がより一層全国的に進み慢性化してくる)③付加価値(量から質、質から味の「代」、時代の変化にともなって価値を創造する)④設備投資(合理化投資と増産投資をよりよく組み合わせる)等々、今後、我々がやらなければならない問題について講演していただきました。
又、福住先生からは「21世紀の土木技術の方向」という演題で21世紀に向けて世の中の環境変化と方向性を適確に学ぶには①今の時代より環境と文化の時代に变化する(動物、自然とのふれ合い→植物、自然体で変化→鉱物、より永遠で魂がある)②技術は芸術をめざす(特許権、実用新案、意匠権→デザイン、著作権)③採算性と創造製品(芸術作品×工業製品の融合化によりゆとりと豊かさの感じられる製品の量産化)等々の講演をスライドを入れながら分かりやすく解説して頂きました。
今回の両先生の講演は、今我々業界において大変大きなビジネスチャンスである日米構造問題協議での、

公共投資の大幅増時代(今後10年間は過去10年間の平均伸び率の5割増、今後10年間の公共投資総額400兆円強)に大変的を得た講演であったと思われました。
私は今後成長しつづけるコンクリートメーカーとは①人材教育開発②新製品開発③製品コスト低限開発④営業力開発⑤システム開発⑥資金力開発の6開発を融合させ、毎年毎年定量目標を持ち常にチャレンジをする会社であると思います。その中でも人材教育開発は、中心になるものであり、長い期間と時間と費用が掛かりますが、根気強く進めなければなりません。全社員が常に前向きである考え方、先見性を読み取る能力、グローバルな初の見方のできることが人材教育開発であると思います。
又どんなに素晴らしい製品であっても製造コストが非常に高かったり、販売力がなければ市場に定着する製品とは成りえませんし、どの開発部門が遅れていても市場性高い製品には成りえないと思います。
企業が成長すると共にシステム開発の重要性がでてきます。システム開発を他の開発部門と融合させ、効果的な資金投入をする事によって総合力を高める事ができると思います。
今回のNEP工業会春季技術営業合同部会には、各社から非常に優秀な若手の皆さんを多く出席させて頂き、各社の前向きな姿勢が出ていたかと思えます。今後とも、各社の総合力を高め、逞しいNEP工業会にしていきましょう。

春季技術、営業合同部会に参加して

営業委員
山田 欣一



5月17日午後1時より京都堀川会館に於いて合同部会が開催され、原田先生には“2001年のコンクリート業界の展望”というテーマで、我々コンクリート業界が量から質、そして質から味の時代へ、又、受注から造注の時代へ大きく変わっていくという興味深い御講演をいただきました。

福住先生からは“21世紀の土木技術の方向”というテーマで色々な角度から我が業界の今後の進み方を示唆され特に全国共通に使用される“工業技術芸術作品”の販売する時代になるとのお話は、大変参考になりました。

翌18日は午前8時ホテル出発宇治平等院の見学をしましたが、国宝である鳳凰堂は(写真1)建立されてから約850年も経っているとは思えない優美で豪華な姿には、暫し時の経つのも忘れ見とれてしまいました。



つぎにK. B. W. (ケイ、ビー、ウォール) 製造、脱型状況を京阪社京都工場にて見学(写真2脱型後、写真3出荷待ちのK. B. W. 下部ブロック)製品の大きさに見学者一同、度胆を抜かれました。又、別に



興味をもって見ていたのが転写ウォルコン(写真4)で、鳳凰堂が過去の作品、K. B. W. が現在の作品とすればさしずめ未来の作品と位置づけられる様におもいました。



最後に名神高速道路拡幅工事現場へと移動し施工現場を見学(写真5、6)工事延長4km、高さ3段~5段で100,068㎡、納入金額4億5千万円と聞き見学者一同又ビックリ、待ちの営業から攻めの営業、そして京阪社の技術開発力には敬服しました。参加者の皆様方には今回の合同部会で得られた、知識と情報を自社に持ち帰り、活用され又一段とハイレベルの製品を開発、販売されることを念願致し、併せて報告とさせていただきます。



会員会社
訪問レポート

若松コンクリート(株)
専務取締役
武田 忠一 氏



沿線の秋田杉が緑濃く山野に映える夏の盛り、秋田から奥羽本線で大館に、そこで花輪線に乗継ぎ、北秋田郡比内町扇田にある若松コンクリート株式会社を訪問した。同社は秋田県北部の米白川上流部に位置する内陸部にあり、技術開発や導入を積極的に図ると共に生産性並びに品質管理の向上に努めておられ、その中心的役割を務めておられる専務取締役・武田忠一氏に話をうかがい、また貴重な資料をいただいた。

■ 会社の沿革について

「会社案内」によって説明しますと大正15年に初代社長・若松吉蔵によって若松セメント製品工業所が設立され、主としてセメント瓦、コンクリート管等の製造販売を始めました。昭和36年6月に若松コンクリート株式会社、(資本金150万円)として法人組織に改め、真館工場を新設、昭和39年に大曲工場、昭和51年には現在地に本社工場を建設し、流し込み土木用ブロック並びにパイコン製品等の総合工場としました。また昭和48年には営業課を若松商工株式会社に発展独立させました。

パイコン製法による即時脱型製品(側溝蓋、境界ブロック、L型ブロック)は昭和48年に技術導入し製造を始めましたが、昭和58年にデンマークのピータスホープス社よりパイコン卵形管の製造機械と技術を導入し量産態勢を整えました。

売実績としては農業分野が50%、次いで道路分野が20%程度で、その他は下水道等となっていますが、製品は排水フリーユーム、ベンチフリーユーム等が主体となっています。

■ 本社工場建設時の思い出は

先述のように昭和51年に現在地の田畑、山林を約150,000㎡造成し、建屋総面積7,500㎡の大規模な本社工場を建設しました。設計は土地開発社によって行なわれましたが、土工量約30万㎡の計画に対して、重機の選定が悪いため土工費が6,200万円と見積もられました。

そこで、私が重機等の土工計画を見直し、工事費を約50%削減することができました。また私は一級建築士ですので建屋の計画設計を行い、工事は地元業者を使って自社の設計管理の下で施工しましたので大変安価に建設

することができ、一工場単位としてはトップクラスの大規模工場となりました。

■ 日頃、生産性と品質管理の向上に努めておられるようですが。

生産性向上を図るために社内に「電力活用推進委員会」を昭和48年に設けて電力活用による工場生産管理活動を始めました。電気消費量をチェックし、各工場の無理、無駄を省いて生産管理を行い経営の合理化を図りました。その成果として昭和52年に通商産業大臣賞を受賞しました。



当社は積ブロックについて昭和52~53年に全工場JIS表示許可を東北地方において先駆けて得ることができ、また本社工場では道路用製品、ベンチフリーユームについて同許可を得ています。

自主的な品質管理による生産性向上、コストダウン、品質保証等の経営改善を図ることを目的としてTQC活動を導入し、昭和56年からの準備期間を経てQCサークル活動を続けています。その結果、職場改善、自主管理

あるいは自己啓発等の活性化並びに品質改善向上に成果が出ています。

昭和58年にはJIS規格製品の製造について工業標準化の理念を理解し、社内標準化の徹底と品質管理の効果が顕著であったとして、また併せて上記のQCサークル活動の評価を得て本社工場に対して「工業標準化実施優良工場」・仙台商産局長賞を受け、昭和63年に「工業技術院長賞」を、また私個人に工業標準化功労者として仙台商産局長賞をいただきました。平成元年には大曲工場が受賞しました。今後、これらの受賞を契機として職場の活性化を図り、品質保証の在り方に取組みたいと思います。

本社工場では効率化の一環としてゴムタイヤ焼却炉を自社設計・製作し、その委託を受けて焼却の際に発生する蒸気を養生に利用しています。



バンコン製法による即時脱型製品の今後について

凍結融解に強いとの評価がありますので寒冷地には適切であり、東北自動車道には多く使用されました。例えば、地中に埋設され外観を必要としない製品には機能と強度を備えておれば最適で伸びが期待できます。

当社では下水道に使用する卵形バイコン管を戦略製品として製造しています。当地域は人口が少ないため下水道整備が遅れていますので、現在は仙台市等の近郊都市に出荷しています。しかし、今後、日米経済構造協議によって生じた生活関連投資や50～80戸程度の農村集落排水等の下水道整備に期待しています。とくに後者については当地域も同様な集落形態がありますのでこの方向を伸ばしたいと考えています。

今後の製品開発の方向性について

ニーズを把むには社会的傾向あるいは高級化指向など一例えば、環境・修景、表面化粧、下水道等一を十分に適確に把握することが前提であり、付加価値の高い製品の開発が必要です。また発注先の要望あるいは相談に対応できる技術スタッフを整えることも大切であると思います。

高級化指向の一つとして表面化粧製品が多く出廻っていますが、全体的な景観を考えた設計あるいは使い方になっていないためアンバランスとなっています。仙台市内の買物公園などでは従来のインターロッキングに替って磁器タイルや天然石を使い雰囲気を作っています。擬石についても今後は自然石風の化粧が要求されてくると思います。

最近の人手不足に対応するためには

この課題は深刻ですが、例えば工場の全自動化の可能性について考えてみますと、従来の多品種・少量生産あるいは低付加価値の小型製品等では設備投資上のメリットはありません。しかし、単一製品を専門工場のようにすることが可能であれば全自動化はできると思います。東京周辺の業者でJIS側溝製品の製造工程の単純化によってコストダウンに成功した話を聞いたことがあります。今後、人手不足や省力化を考えますと半自動化程度は研究する必要があるでしょう。

貴重なお話と資料をいただきまして有難うございました。(文責：扇)

(会社概要)

創 立	大正15年5月
取締役会長	若松吉治
代表取締役社長	若松栄三郎
資 本 金	3,500万円
売 上 高	35億円
従 業 員 数	154名
系 列 会 社	3社
本 社 所 在 地	秋田県北秋田郡比内町 扇田字押切12-1

中部地区工場研修を終えて

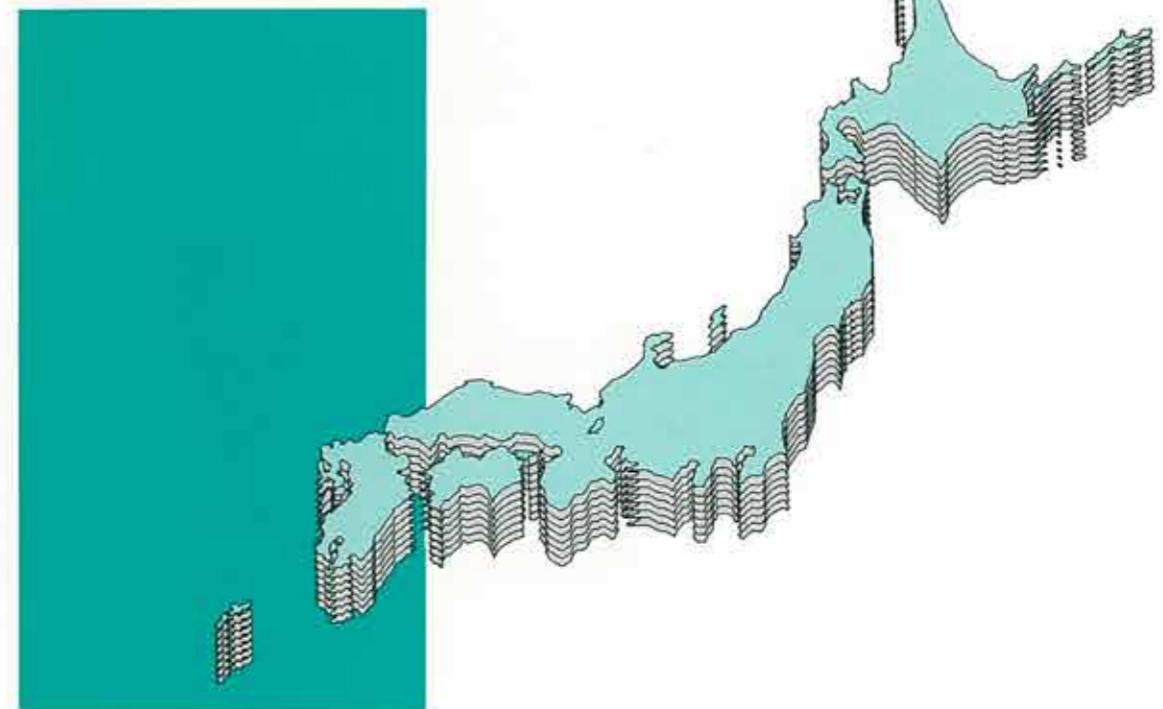
7月24日より3日間、三重県内のNEP各社へ、堀之内団長(九建社)、並川(協立社)、村田(不二高圧社)両部会長を副団長に8社18名の参加者で工場研修会が行なわれました。九州各地より大阪空港に集合、バスにて近畿道、西名阪道を利用し、最初の目的地、柘植コンクリート工業株、三雲工場に到着。柘植専務、鳥井常務の出迎えを受け、敷地面積2万7000㎡、年間生産t数約4万2000t等の概要説明後、工場見学。自動ライン等の設備も完全になされ、整備された工場という印象でした。これも毎月25日を安全日とし、安全会議、機械整備等を行なっている事と、QC活動の成果の表われではないでしょうか。夕方、伊勢神宮の内宮を参拝、鳥羽ホテルに到着後、ロビーにて並川副団長を中心に意見交換を行い、1日目が終わる。

翌朝、鳥羽水族館の前を通り、株ネオジオの度会工場へ。約1万坪の敷地で現在はインターロッキングブロックのラインが稼働している。大型製品工場は基礎工事中で11月頃完成予定との事でした。特に社員福祉に力を入れられ、スポーツクラブ等のサークル活動が盛んであると、太田専務の話でした。次



に日本コンクリート株の三重工場で夫馬製造部長の説明を受ける。インターロッキングブロックとボックスアルパートを中心の工場ととにかく規模が大きい。敷地面積約2万6000坪、大型製品年間t数約15万t、騒音防止等で流動化コンクリート使用との事でした。鈴鹿国定公園内の湯の山温泉で宿をとる。約1時間の意見交換後に、焼酎による親睦会。

3日目、全長2200mの御在所のロープウェイを眺めつつバスは伊賀上野へ。京阪コンクリート工業株三重工場で北浦課長の概要説明、敷地面積約1万㎡、日産約120～130t、設備投資に今しばらくかかるとの事でした。西日本NEPの工場研修も1年目が東北地区、2年目が中部・長野地区、昨年が関東地区で今回が4年目です。色々な地域で、色々な方々にお世話になっております。紙上をお借りしましてお礼申し上げます。



我社の自慢コーナー

株式会社 丸治コンクリート工業所

全員参加の同好会

平素はNEP工業会の皆様には格別の御指導御鞭撻を賜り心より御礼申し上げます。我社の全員参加による同好会を御紹介させていただきます。我社は直営3工場・2営業所、従業員総数130数名の会社です。そんな会社の中での同好会数10（バドミントン、ボーリング、ゴルフ、スキー、釣り、剣道、将棋、カラオケetc）事務局は総務部に持ち各同好会、会長・会計・幹事等役割分担

の上活動しております。毎年会社より総額予算をいただき会長会により予算分配をし、活動する際には全員参加を目標に各工場、各営業所にそのつど掘り出し会員以外の参加も募り、いわゆる自由選択型同好会、毎月どこかでだれかがワイワイガヤガヤと仲間となにかをしている、会員が幹事役をつとめているそんな同好会です。

剣道部紹介

丸治コンクリート工業所の剣道部同好会は社内だけでなく地域社会にも貢献を目標に毎週土曜日仕事終了後、同好会会員にて会社近くの明珠館道場にて地元の小学校から高校生までを対象に指導また稽古に励んでおります。

社長も有段者ときいておりいつの日か指導を願っていると同時に実業団の試合で常勝できるよう頑張っております。

私たちは、子供達に「残心」すなわち、打ち込みや突きが十分な時でも決して油断せず次の変化に対応できる身構えを怠らない精神を剣道を通じて教えております。この「残心」の精神は会社における業務にもまさにあてはまると考え心の中に刻み、また一人でも多くの人たちに剣道の楽しさを知ってもらいたいと考えております。



新製品導入委員会便り

新製品導入委員会委員
大月 喜雄



工業会の皆様今日は、日頃、当工業会新製品導入委員会の運営に当たりましては、大変ご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、当工業会における新製品導入委員会の役割は、今までに荒川新製品導入委員長より何回か説明されておりますが、会員各社が開発された新製品、新工法、又会員各社が入手された新情報をお互いに提供し合い、研究するために、会員の皆様から提供された内容を当委員会が窓口となり、受け付け、更に調査研究をし、営業、技術、小委員会の意見を参照して、物件、情報を整理整頓して所定の手続きを経た上で、皆様に発表させていただいております。

今回第19期NEP工業会総会で、新たに報告致しました導入商品4品目、斡旋商品3品目を合わせますと、NEP工業会取り扱い製品及び工法は24品目となりました。会員の皆様におかれましては、この24品目が各社各様に評価され、ニーズにマッチしたものを活用いただいておりますが、我々の役割はこれだけにとどまらず、これから我々の於かっている環境も大きく変わりつつあります。そのような環境の中で、皆様共々お互いに情報を提供し合い、享受し、活用できる方向に積極的に取り組んでいきたいと考えております。

一口に情報と言っても抽象的な事になりますが、今回の合同部会では議題に上げました5項目及び、書籍「街の素材」の紹介は、皆様から提供していただいた新製品、新工法、新情報、を紹介という形で

発表させていただきました。

紹介しました内容については、限られた時間で十分皆様に紹介できたかどうか分かりませんが、皆様から見てどの様に判断されたか、いづれにしても参考になったのではないのでしょうか。お気付きの点、又はご意見がありましたらお聴かせいただきたいと思います。

その内容は、

- 1) **メッシュ自動曲加工機** 製造元 尙ABM山口
紹介：大建社、館山社、沖コン社
- 2) **搬送用吊り具** 製造元 京華産業(株)
紹介：ヨシコン社 製造元 株マルイ
- 3) **テストピース研磨機、他** 製造元 株マルイ
紹介：京阪社
- 4) **型枠保護剤「プリラスト」** 製造元 サンスター技研(株)
紹介：京阪社 製造元 エスピーシー(株)
- 5) **天然石模様シート貼工法** 製造元 三菱レイヨン(株)
「ピクチャーロック」

紹介：京阪社 製造元 株菱晃
以上であります。詳しくはNEP工業会事務局に問い合わせ下さい。

当新製品導入委員会としましては新製品、新工法、新技術の導入、斡旋だけでなく、積極的に製品、工法、技術の紹介をしていきたいと考えています。今後とも会員の皆様からどんどん情報の提供をしていただくことお願い致しまして、報告を終わらせていただきます。

編集後記

いつか、どこかで読んだお話。
むかしむかし、ある地方でのお話でした。それはそれは多くのお酒を造る人達が住んでいる町でのお話です。毎日いろんなお家でお酒を造っていました。ある年のお祭りの夜、皆で自慢話となりました。「俺の家の酒が一番おいしい」「俺の家の酒が一番おいしい」とうとうけんかとなってしまいました。それを見ていた長老が言ったとき、「そんなに皆がおいしいおいしいと言う酒を、全部混ぜたらどんなにおいしいお酒ができるだろう。こんなけんかはやめて本当のおいしいお酒を飲んでみようじゃないか」皆は舌なめつりをしながら次の夜、茶わん一杯ずつの自慢のお酒を持ち寄ってきました。そして大きな瓶へ全部入れて、さあ～飲んでみました。
どうなったと思いますか？
一番おいしいはすのお酒は、なんとなんと、水でした。

ここまで読んでドキッとされる方はいませんか？そう
です。皆が「俺一人くらい水を持っていったってわからないだろう」と全員が水を持ち寄ったのでした。
そうなんです。俺一人くらい、俺一人くらいで、こんなおはなし。
いろんな仕事してませんか？いろんな事を頼まれていませんか？いろんな返事を求められていませんか？
NEPも皆の集まりです。他の会も皆の集まりです。頼まれたこと、返信が必要なこと、すぐに処理しましょうね。
今回のNEP REPORTは皆がすぐに美味しいお酒を持ち寄っていただけましたのでとっても美味しくなりました。
このお話は、今回事務局のお手伝いをした男の自戒のお話でした。

(T.O)